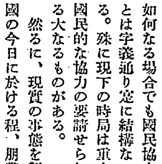

國民協力運動に就いて

協調會調査部　中島仁之助

北支事變を契機として各方面に國民協力の聲が揚げられて居る。何時如何なる場合でも國民協力と云ふことは字義通り完に結構な事柄である。殊に現下の時局は重大であつて國民的な協力の要請せられること頗る大なるものがある。

然るに、現實の事態を觀るに、我國の今日に於ける程、朋黨的派閥的感情が相爭ひ、諸方面の意見が分裂し、利害が對立し矛盾相剋の甚しきは少ないであらう。對外關係の異常に緊迫せる秋に當つて、斯の如き國內の對立相剋は極めて憂ふべき事象と云はねばならない。乃ち、昨今の危局を控えて俄かに國民協力の叫ばるゝ所以でもあらう。

併し乍ら、茲に省思すべきは、今日の如き內外の危局に際し、擧國一致、國民協力の切要とせられる時代に於て、今尚國內に幾多の不一致が存し、擧國一體の實を擧げ得られないかと云ふことである。

本來ならば期せずして行はれ得べき國民協力を殊更聲を大にして叫ばねばならないかと云ふことである。斯點にこそ今日の最も大きな問題があると云へやう。

斯の如き、國內の不一致、不協力に就いては種々の理由が擧げられる。或ひは之を以て功利主義的な近代教育の弊と觀る者もあらう。或ひは政治の腐敗墮落の結果なりと見做す者もあらう。或ひは所謂資本主義物質文明の行詰りと觀ずる者もあらう。或ひは又、國民思想の弛緩、國民道德の廢頽なりと考ふる者もあらう。共等理由の何れもが必ずしも當らずとは云へない。而も、問題は更に一層廣く大きな點に亘つて居ると思はれる。即ち、今日の我國には國民を嚮導するに足るべき指導精神を欠如し、國民を歸一すべき國策の確立せられたものもなく、從て擧國的努力の標的が失はれて居る。其の結果は、朋黨派閥各々小我を固執して紛擾し、徒らに議論のみ多くして成功少なく、事毎に見解利害の對立相剋を生じ、國民的エネルギイの分散徒消に了つて居る。國民は據るべき基準方向を失ひ歸趨する所に迷つて居る。茲に現代國民生活の最大なる不安がある。故に即今の急務は、時運に適切なる指導精神を確立して現在混亂無明の裡を彷徨しつゝある國民に據るべき基準を與へ、嚮ふべき方向を示し、以て國民生活の不安を解消せしむるに在る。更に、斯かる指導精神の下に具體的なる國策の全體系を整備して國民的努力の集中標的を定むるに在る。之なくして如何に國論の統一を唱え、國民の協力を云々するも、それは全く形骸的の統一、機械的の協力に過ぎぬであらう。

所謂國民協力運動は共の形式よりも共の精神內容が大事である。共處には正に民族精神の生々躍動するものがなければならぬ。單なる爲政當局の便宜主義、獨善主義若くは御用團體の追隨主義に基いて眞個の力強い國民協力は斷じて起り得ない。それは飽迄自主的に國民の間から盛り上つて來る力を基礎とせねばならぬ。而も國民に對して據るべき基準、進むべき方向を示さず、擧國的努力を集中すべき標的を與ふることなくして斯かる協力的機運を國民の間に喚起することは不可能である。現下の如き情勢に處して國民協力の提唱は固より惡くはない。併し乍ら、更に肝要なることは斯かる國民協力に對して目標と內容を與へることである。即ち、統一的な指導精神と之に基く國策の確立こそ凡ゆる國民的協力の必要不可缺なる前提條件を成すものと云へやう。眞の國民協力運動は國策の方向線に沿ふてのみ可能である。而も、所謂國策とは單なる政策の上に國家の名を冠すれば濟むと云ふ譯のものではない。眞正の國策とは必ず一定の指導精神の下に統整され、秩序立つて配列された政策の全體系を意味するのである。國民を嚮導するに足る指導精神の確立なき所に國策は有り得ず、國策なき所に國民協力の標的は存在しない。國策の方向線に沿ふた國民協力運動、それは一面に於て政治運動であり、組織運動であり、他面に於て思想運動であり教育運動である。

之を諸外國の事例に見る。ソヴェート聯邦の第一次第二次五ケ年計畫（近く第三次の計畫に入る筈）の事業の如きも正に國策の線に沿ふた國民的エネルギイの發現たる意味に於て國民運動の一典型と看做すことができる。米國のニュー・ディールの如きも、共の成果は姑く措き、共の廣汎なる國民的體驗に訴へたる點よりして矢張一種の國民運動、國策運動と目すべきであらう。伊太利のファッショ、獨逸のナチス等の運動は固より、或ひは支那の新生活運動の如きも亦、齊しく國民運動の部類に屬するものと考へられる。

我が日本に於ては此の際可及的速やかに國策の大本を確立し、國民的努力の集中標的を決定し、之に向つて國內の凡ゆる職能、知識、經驗の總動員を行ひ、以て國運の一大飛躍進展を期すべきである。現在でも日本の獨自の立場と云ひ、日本精神と云ふやうなことが、盛に叫ばれて居るが、憾むらくは共れ自體殊に共の國策に於ける具體化の問題が今尙不明確裡に取殘されて居る。所謂日本精神が生々たる國民運動の根本的指導原理たらんがためにはそれが單なる抽象的な說教乃至觀念的なる思索の範圍に低迷せず、進んでは政策的實踐の領域に於て如實に具體化さるゝことが必要である。（完）

國際正義と社會正義

凡ての個人が人間としての最低生活が保障され、各自の能力に應じて發展の機會が具へられるならば社會正義が實現されてゐるのである。凡ての國家に貿易と移民の自由が認められ、各國の能力に應じて發展の機會が與へられるならば、國際正義が實現されてゐるのである。

（一頁下段より）

るは失ふことであると。相共に產業究極目的に覺醒し、融合一體となりて工場團體に歸入統合されるに至りて始めて有機的生命活動團體の出現を見ることが出來る。余嘗て十數年自ら勞働管理の衝に當り些か社會に向つて共範を垂れたことであつた。茲に述ぶる處は單なる机上の空論では無くして、余が多年の體驗より拈提し來つたところの貴重なる結論であつて余が終生を通じて泰山の如かるべき信念の表示である。ジョン・デ・ロックフェラー曰く、『從來重なる工業團體に於て主腦者を選擇するには主として共組織者又は經理家としての能力に據つたものであつたが、時は速に流れた。今は如何にせば成功的且友誼的に勞働管理を爲し得るかの能力が主腦者たるものの大切な資格となつた』と。勞働管理は近代產業の中心問題である。之を大別して精神と制度と爲すことが出來る。世の學者の論ずるところのものは多くは制度の細別說明に止まる。精神の根本的なることを忘れては畢竟机上の空論である。眞情の發露するところ自らにして百の施設が成立するであらう。嗚呼眞情なる哉。

眞情を離れて同寅協恭、和衷を求むるも豈得可けんや。言志錄に曰く、『唐虞の治は只是れ情の一字、極めて而して之を言へば、萬物一體の推に外ならず』と。

只是れ一念子、吾人の眞に尊重すべきものは眞情の發露である。

※　※　※

珍らしい熟練工養成論

熟練工を誰が養成するか、不況になつた時はどうして處分するか、等とやかましい對策が考へられてゐる際、三菱電機の大內愛七氏は頗る示唆に富んだ新論を提唱してゐる。（詳細は雜誌「敎育」七月號參照）

×　×　×

大內氏に依れば今日の戰爭は科學戰である、飛行機や自動車の戰爭である。戰場で修繕なんかする暇はないので、飛行機は消耗品と同樣に考へて、次々に用意しなければならぬ。そこで從來の工業動員と異り、特別に大規模な準備が必要である。戰爭には平時の數十倍の生產能力を必要とする。

然るに今日熟練工問題を論ずるに當つて、殆んど戰時對策が考へられてゐない。

武器は技術の進步の爲に澤山貯藏して置くわけにゆかない。戰爭になつて急增しうる準備が必要である。戰爭の場合を考へると先づ熟練工に就ては戰時に間に合ふ人を平時から養成することが大切であるのに、今日ではまだ戰爭にもならぬ中から熟練工の不足を告げてゐる。

それにはどうすればよいかと云ふと玆に案がある。それは陸海軍の工廠を開放することだ。一體陸軍なり海軍なりは全體が敎育機關とも云ふべきもので、壯丁を集めて敎育しては歸し、新らしい人間をどんどん交代さしてゐる。一旦有事の際には是等の人を召集して我が國の戰鬪力を作るのが軍隊組織である。

この組織を利用すれば陸海軍工廠で職工肓換へれば機械兵を養成することは少しも矛盾ではない。徵兵された壯丁に製作技術を敎へ込んでゆけばよい。鐵砲を持つことを敎へる代りに作ることを敎へるのだ。

斯かる機械兵は普通兵と同樣に兵役期間が終れば、各自の職業に復歸し、戰爭の時のみ動員されるから、今日の如く民間工場が不況を心配しながら、熟練工を養成するよりも合理的である。

×　×　×

右の論に對しては實際上多少の困難はあるけれども非常時勞働政策としては珍重すべき一家言である。

安全な旅

協調會產業福利部　前田美稻

協議の結果割當てられた先は岡山縣と鳥取縣、安全運動の戰士としては初陣である。頭のハゲかゝつた爺者の武者振りは決して淨瑠璃に出て來る若武者の如く華かなものではないことだけは百も二百も承知の上、二日午後十一時と云ふに東京を發つた。四日から朝晝二度づゝの講演、會場へ出て見ると、未だ頑是ないと云ふ言葉がピッタリしさうな女工さんが多い。東京を出るとき多少用意はして來たものゝ、この聽衆を前にしてはハタと困つて了つた。幸ひ紹介役の有道岡山縣工場課長のクダケた話方に引づられて、小學校の先生になつたつもりで一席辨じてからは案外可もなく不可もなく、先以て責だけは果して歸つたやうな譯。岡山縣工場課當局、鳥取縣保安課當局には一方ならぬ御世話になり、至極安全な講演行脚が出來たことを衷心から感謝する。割當てられた講演先は

岡山縣	
鐘紡備前工場	四日午前十時
鐘紡岡山絹糸工場	四日午後一時
倉敷紡績萬壽工場	五日午前十時
倉敷絹織倉敷工場	五日午後一時
倉敷紡績萬壽工場	五日午後六時
鳥取縣	
日本製糸潮山工場	十日正午
郡是製糸鳥取工場	十日午後六時
郡是製糸倉吉工場	十一日正午
片倉製糸上井工場	十一日午後六時
日本製糸株式會社	十二日正午
伯西社（組合製糸）	十二日午後六時

＊　＊

國際正義と北支事變

國際正義の申し子として生れたのが嘗ての國際聯盟であつた。けれどもこの時の國際正義の內容が英佛等の所謂戰勝國の既得權益の擁護を圖るといふ利己的なものであつたが爲に、日獨伊等の脫退後は空々寂々の存在となつて了つた。然るにも不拘、今回の北支事變に際しては、支那は逸早く聯盟加盟各國に依存して何分の配慮に與かろうと燥つてゐるが、利に敏い是等の諸國は滿洲事變で懲りてゐるから中々おいそれと容易に動かうとはせぬ。若し動いても少くとも手前辨當で支那の爲に圖るといふ義俠はあるまい。必ず何かの形に於て相當の代償を要求するのが彼等の常套行爲である。

支那の痛は要するにこういふ結果を伴ふ所の遠交近攻の策を敢て弄する所にある。從つて健全な國家になる爲にはどうしてもこの痛を取り除かねばならぬ。それには一體どうすればよいか。一轉語を下して曰く遠攻近交をすればよいのである。即ち先づ日本と親交し相提携することである。否日本がほんとうに支那から信賴を受ける樣に擧國一致して努めることである。近衞首相のいふ國際正義の觀點から論ずるならば、今日の日本の北支出兵は、支那精神から遠く離れた近代歐米流の利己主義乃至最も害毒を流す共產主義に育くまれ且刺戟された抗日思想とその運動の非を膺懲し、日支不可分の道理を明かにして、倶に興に東洋平和民族の自立と亞細亞國家の獨立の爲に奮起すべきことを促すにある。此の事なくして眞の世界平和も、人類の幸福も實現されない。されば我が出兵は利によつて動いたのではなく義によつて立つたのである。それだけ日本としては千萬人と雖も我往かんの慨あると共に、義兵の名に耻ぢざる國民的膽識と風格を一層必要とする。

國民協力運動の基調とその方法

岡部鐵工所主　岡部繁

近衞內閣の提唱する國民協力運動の全貌は未だ國民大衆に十分理解されてゐない樣である。玆に於て本誌編輯部に於ては八月號特別記事として國民協力運動の基調と方法に就いて、問合せをなしたところ、極めて眞摯なる次の如き回答があつた。

如何なる運動も起る原因と理由を明にし其目的目標を正しく認識せしむる事が其運動徹底の第一要素である方向と理由を示さずして、さ!!　來れと云ふても大衆は右往左往をするのみで何等の力となる事も出來ぬであろう。

一、何をスローガンとして國民運動を起しますか

今日の非常時が生んだ此の運動は日本と日本人を忘れんとしたるものゝ惡業の現われではあるまいか。

故にスローガンとしては

日本に歸れ　日本人に歸れ

建國の精神に歸れ

二、如何なる團體が之をなす事が最も合理的でありますか

如何なる團體がなしても此の中心が確立せなければ駄目である。君の爲め命を捧げ得る日本國民に對しては今更合理的と稱する指導團體の必要もあるまいと思ふ。國民の師表たるべき陛下の官吏によつて正しく指導さるゝ事が最も合理的で早道である。

三、如何なる方法で之を行ふべきでせうか

官吏の實踐躬行、官行一致以て上御一人の御徳を發揚する事に命をかけ得るならば國民大衆は直ちに祖先の偉業に甦